

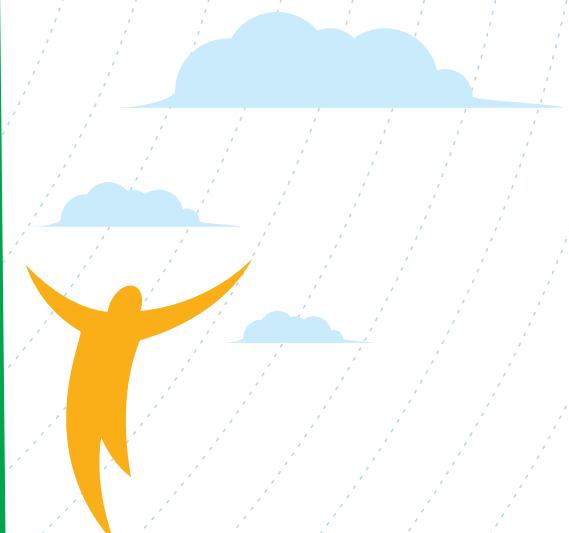
持続可能な社会のための「人」づくり

私たちがこの地球でくらし続けていくためには
先進国の人、途上国の人
都会の人、農村の人
ものを作る人、ものを買う人
大人も、子供も
すべての人が「くらし方」や「社会の仕組み」を
持続可能なものに変えていくことが必要です。

『教育』はその基盤となる価値観や力を育むもの

“ESD”という未来をつくる教育が
日本で、世界で、始まっています。

Education for Sustainable Development



人がかわる 未来をかえる 学びあい それが **ESD**

この地球がいつまでも命あふれる星するために
そしてその地球上で私たち人間が暮らし続けていくために
世界ではさまざまな議論がなされてきました。

1980年に提示された「持続可能な開発」という概念には
国際社会の共通課題として、環境問題と同時に貧困問題も
解決しなければならないという決意が込められています。
そして、それらを解決するための教育の重要性が繰り返し指摘されています。
1992年の地球サミットで採択された「アジェンダ21」では
教育は、環境と開発の問題を解決する意識や価値観・能力を身につけ
意思決定への効果的な市民参加を実現するために重要であると示されています。
このような流れを受けて、2002年のヨハネスブルグサミットで
日本やNGOと政府が共同提案し、国連で決議されたのが「ESDの10年」です。

ESDは
人を、社会を、「教育」という方法で変えていくことを目指しています。

「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）は
多様な分野の組織、人々が結集したネットワーク組織として
市民のイニシアティブによってESDを推進し
持続可能な社会づくりのための「人」づくりに取組みます。

NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」

推進会議（ESD-J）代表理事

阿部 治



1948
第3回国連総会
「世界人権宣言」を採択

1972
国連人間環境会議
「人間環境宣言」を採択

1980
IUCN、UNEP、WWF「世界環境保全戦略」を発表
※持続可能な開発（SD）の概念を提示

1985
第4回ユネスコ国際成人教育会議
「学習権宣言」を採択

1987
ブルントラント委員会「Our Common Future」を発表

1992
地球サミット
「アジェンダ21」を策定
※SDに向けた教育の重要性を提示

1989
第44回国連総会
「子供の権利条約」を採択

1990
万人のための世界教育会議
※基礎教育という概念が国際的に認知

2000
国連ミレニアムサミット
「国連ミレニアム宣言」を発表

2002
ヨハネスブルグサミット「ESDの10年」を日本が提案

2002
第57回国連総会
「ESDの10年」採択

2005
「ESDの10年」スタート

ESDの10年

「国連持続可能な開発のための教育の10年」は、持続可能な社会の実現に必要な教育への取り組みと国際協力を、積極的に推進するよう各国政府に働きかける国連のキャンペーン（2005年～2014年）です。「持続可能な開発のための教育」を表す英語（Education for Sustainable Development）の頭文字をとって「ESD（イー・エス・ディー）の10年」と呼んでいます。

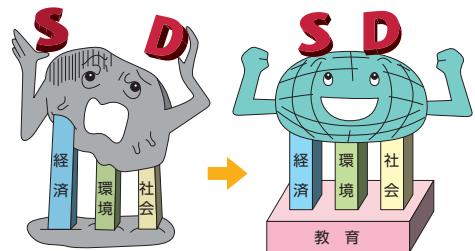
環境破壊や貧困問題が 私たちの未来を脅かしています

従来型の開発は、物質的な豊かさをもたらす一方で、環境破壊、貧富の格差拡大、人権侵害など、多くの問題を生み出しています。世界中の人々、そして将来世代の人々が、安心して暮らせる社会にするためには、環境、社会、経済をバランスよく保つ、持続可能な開発が必要とされています。

持続可能な社会を 創造する基盤が「教育」です

持続可能な社会をつくるためには、さまざまな取組みが必要となります。その中で社会の課題と自分のつながりに気づき、行動できる「意欲」や「能力」を持った「人」と、その行動を支える「人と人のつながり」を育てることがとても大切です。

持続可能な社会をつくるための「基盤」として特に重要なものの、それが「教育」であると私たちは考えています。



ESDってどんな教育活動？

ESDとは、社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指すものです。例えば、持続不可能な社会の課題を知り、その原因と向き合う。それらを解決するためにできることを考え、実際に行動する。そのような経験を通じて、社会の一員としての認識や行動力が育まれていきます。また、豊かな自然といのちのつながりを感じたり、地域に根ざした伝統文化や人びとと触れながら、人と自然、人と人との共存とや多様な生き方を学ぶといったことも、ESDのアプローチのひとつです。

ESDは単なる知識習得ではなく、
学習者みずからが
価値観を見つめ直し、
よりよい社会づくりに
参画するための力を
育むことを目指した教育です。



さまざまな持続可能な社会への
課題と向き合い、
問題解決型の「教育」や
「地域の活動」から生まれる、
参加体験型の「学び」を
重視しています。

学校、企業、行政、NPO、
社会教育機関、農林漁業者など、
さまざまな立場の人たち、
大人も子供も、
それぞれがESDの担い手であり、
学び手です。

持続可能な社会への課題
(環境・貧困・人権・平和・開発...)
はとても複雑。だから、ESDは
環境、社会、経済のこと
総合的に扱うことが
重要と考えます。

〈表紙のキーワード〉 持続可能な社会に通じるキーワードをさまざまな国のことばで表現しました。

ສີທະນະພາບຂອນ / 人権 (タイ語) Naturaleza / 自然 (スペイン語) شرکت کردن / 参加 (ペルシャ語) Fairness / 公正 (英語) 幸福 (中国語)
безопасность / 安全 (ロシア語) 문화 / 文化 (韓国語) स्वास्थ्य / 健康 (ネパール語) Mbalimbali / 多様性 (スワヒリ語) 平和 (日本語)

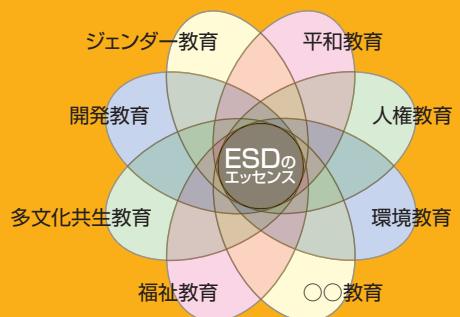
ESD

で大切にしている 視点

価値観
育みたい力
学びの方法

ESDをきっかけに、環境・開発・人権など、社会的課題をめぐる
さまざまな教育がつながり始めています。

ESD-Jは、「持続可能な社会をつくる」という目標にむけて、
異なる教育分野のみなさんと、
互いに共有できるエッセンス(本質)は何かを探る、
ESD地域ミーティングやワークショップを全国各地で開催してきました。
その取組みを通じて、お互いの教育に共通して存在する
「大切な物」が抽出されました。
それが、ここに示した、「価値観」、「育みたい力」、「学びの方法」です。
ぜひ皆さんのがESDに関する議論のベースに活用していただき、
追加・修正しながら発展させてください。



ESDでつちかいたい 「価値観」

- 人間の尊厳はかけがえがない
- 私たちは社会的・経済的に公正な社会をつくる責任がある
- 現世代は将来世代に対する責任を持っている
- 人は自然の一部である
- 文化的な多様性を尊重する

ESDを通じて育みたい 「能力」

- 自分で感じ、考える力
- 問題の本質を見抜く力／批判する思考力
- 気持ちや考えを表現する力
- 多様な価値観をみとめ、尊重する力
- 他者と協力してものごとを進める力
- 具体的な解決方法を生み出す力
- 自分が望む社会を思い描く力
- 地域や国、地球の環境容量を理解する力
- みずから実践する力

ESDが大切にしている 「学びの方法」

- 参加体験型の手法が活かされている
- 現実的課題に実践的に取組んでいる
- 繼続的な学びのプロセスがある
- 多様な立場・世代の人びとと学ぶ
- 学習者の主体性を尊重する
- 人や地域の可能性を最大限に活かしている
- 関わる人が互いに学び合える
- ただ一つの正解をあらかじめ用意しない



ESDの実践例

大切にしている視点は同じでも、その実現方法はとても多彩です。

学校が結ぶ、学校+地域+世界

体験学習を教科とつなぎ、感性と知識を育む

面瀬小学校では、1～6学年まで、子どもの発達段階に沿って「海辺の環境と人々の生活」や「環境未来都市プロジェクト」など通年テーマを設け、体験的な学習を地域の生産者やNPO、大学などと連携し展開しています。それらの体験と各教科を横断的に結ぶことで、地域の自然、文化、しごと、くらし、そしてそれらと自分たちの関係を丁寧に学び合っています。さらに、米国の小学校との交流や成果の共有を通じて、地域及び地球環境に対する理解を深めるとともに国際的視野の拡大を図っています。

宮城県気仙沼市／面瀬小学校



NPOが結ぶ、都市+農村

「むら」のくらしがぼくらの先生！



生き方を模索する若者たち、過疎に悩む農山村——。地球緑化センターの「緑のふるさと協力隊」は、農山村に興味をもつ若者を、地域活性化をめざす地方自治体へ一年間派遣するというものの。単発のイベントでは得られない、長い時間をかけた「くらし」を通じた交流が、若者に生きる力や持続可能なくらし方・社会につながる価値観をもたらします。そして、農村にも元気を与える、地域の魅力再発見、自信回復につながっています。

全国／NPO法人 地球緑化センター



NGOが結ぶ、国際協力+地域活動

放置自転車から見える自分、地域、世界のつながり

えひめグローバルネットワークでは、アフリカモザンビークでの武装解除のために、松山市の放置自転車を回収し、現地へ送り、それらと交換で武器を回収する活動を続けています。この活動を通して、身近な地域の交通状況、大量消費、廃棄の問題を見つめなおし、世界の問題へも関心を育てています。そして、大学や高校、企業、さらにはアメリカの姉妹都市との連携した取り組みなど、地域と世界を結びながら、「私たちにできること」を、主体的に「学ぶ」活動へとつなげています。

愛媛県松山市／NPO法人 えひめグローバルネットワーク

企業が結ぶ、地域の課題+社員

社員の主体的な参加が、CSRリテラシーを高める

富士ゼロックス(株)の「端数俱楽部」は、趣旨に賛同した従業員、退職者約4,000名で構成される、自発・自主運営のボランティア組織。給料や賞与の100円未満の『端数』に、個人の自由意志による100円×n口の拠出金をプラスし、活動資金としています。社会福祉・文化教育・自然環境保護・国際支援の4つの部会で構成され、それぞれの分野で、自主的な社会貢献活動と、会員の推薦によるNPOなどへの寄付を行っています。この企業による社会貢献活動は、社員が“主体的”に地域や世界の課題に触れる機会をつくり、その解決に当事者と一緒に取組むことで、地球的課題の認識とCSRリテラシーの向上につながっています。

全国／富士ゼロックス株式会社



ESDを進めるアプローチはさまざま。「身近な生活問題を通して、世界の問題を考える」「地域の多様な人と一緒に行う」「問題解決型の手法を取り入れる」…。学校教育、社会教育、企業の人材育成、地域活動など、さまざまな場を、主体的な社会参加と問題解決型の学び合いの場にする「ESD」について、みなさんもぜひ考えてみてください。



(財)日本自然保護協会
(NACS-J)
志村智子



ESDというキーワードが 『教育』をつなぎ、広げる ～〇〇教育が描く ESDのシナリオ～

2006年にESD-Jが主催した「ESDシナリオづくりプロジェクト」において、
さまざまな分野の教育に取組む方々と、
それぞれの教育とESDをつなぐ方法を探るための
ワークショップを実施しました。
その参加者の声を中心に、各分野とESDの関係、
意味について語っていただきました。



ハーゲ平和アピール
平和教育地球キャン
ペーン
淺川和也



ESDの原理は、 平和教育の今後の 課題と合致する

平和構築の担い手の育成に国際貢献の一環として政府がのりだすようです。それ以上に、武力紛争がおこらないようとする紛争予防に意味があります。それには対立や紛争をのりこえる平和の文化を築くための市民による努力が必要です。社会の担い手として責任のある市民としての力をつけていくというESDの原理は、まさに平和教育の今後の課題と合致するものです。私と社会をつなぐ平和教育の実践は、ESDに結集する人々のパーソナルなストーリーと織りなされていくように思います。



ESDは多様な 教育活動の共通項

ESDは世界中の人々と自然が豊かに調和しうる社会をめざす多様な教育活動の共通項であり、そのESDの根底に福祉的な視点が求められています。福祉教育の一翼を担う社会福祉協議会において、ESDについての理解を深め、広がりのある学びをつくっていくこと、ESDという共通項によって、福祉教育が環境・教育・国際・人権等幅広い教育活動とつながり、豊かな市民社会をつくっていくための礎を築いていくことが必要です。



(社福)全国社会福祉協
議会 全国ボランティ
ア活動振興センター
河邊 裕子



地域の「主要矛盾」と 「必要」から課題を立てる



(社)農山漁村文化協会
清水悟

〇〇教育がみずから運動を創造的に永続させていくうえで求められる自己変革の＜導きの糸＞としてESDをとらえ、ESDに結集しつつ、それぞれの契機で自己変革をすすめることが重要です。この自己変革の場はアリティのある「地域」と考えたい。多元的ネットワークを地域で結び、広く深い視野で地域の「主要矛盾」と「必要」を掘り下げ、地域課題を明確にしていく。そして世界を、国家ではなく、自分らと同様の、しかし多様な個性的地域の集合として考えてみる。そこから、公正で持続可能なくもう一つの社会>形成の第一歩が始まると思います。

「ESDの10年」を牽引する 民間ネットワーク

ESD-Jは、2005年から始まった「ESDの10年」を追い風として、市民のイニシアティブで“持続可能な開発のための教育”を推進するネットワーク団体です。ESDに取り組む、NGO/NPO・教育関連機関・自治体・企業・メディアなどの組織や個人がつながり、国内外におけるESD推進のための政策提言、ネットワークづくり、情報発信を行っています。



ESDの活動 5つの柱

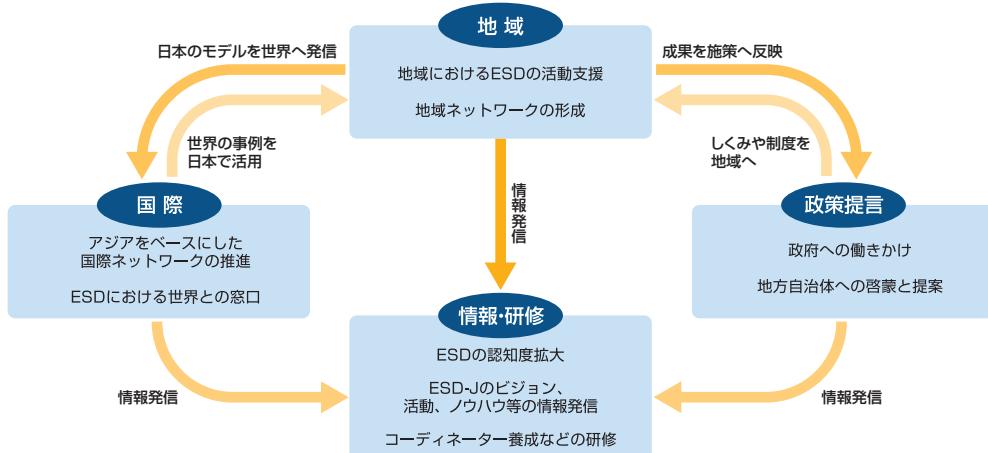
➡ ESDを推進するための政策提言

➡ 地域でのESD活動支援、ネットワークづくり

➡ ESDに関する国際ネットワークの構築

➡ 各種メディアによる情報発信

➡ ESDの研修および普及啓発



緒方 貞子

独立行政法人 国際協力機構(JICA) 理事長

教育とは将来を信じ、人に投資すること。
実現のために協力を。

紛争や貧困など差し迫った脅威の前で、教育に対する投資は真っ先に削減されるリスクがあります。教育とは、個人個人の潜在能力を引き出し、未来の可能性を広げるものであり、発展の基礎となるものです。教育なくして、貧困削減も持続的な発展もありません。それぞれの固有の文化や考え方を尊重し、世界のひとひとが共存・共生する社会を作るためには、教育により力を入れていくことが大切です。

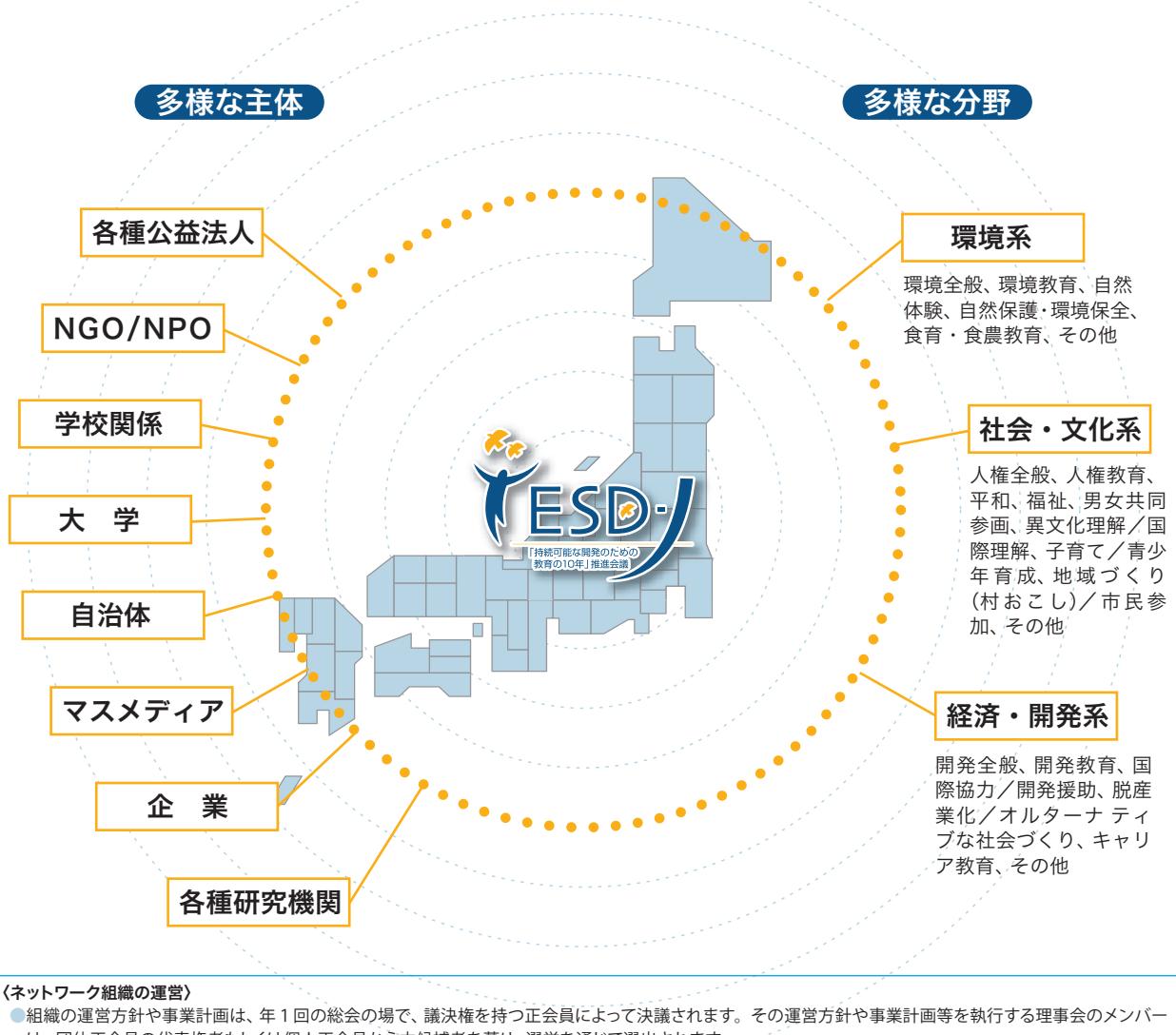
池田 香代子

ドイツ文学翻訳家 ESD-J顧問

身近な暮らしが、
世界の幸せにつながるように

地域で、企業で、学校で、ESDの輪が広がっています。戦争や貧困、環境破壊や温暖化。すべては、わたしたちの暮らし方とつながっています。一人ひとりが身近なところで、さまざまな疑問や発想をあたため、語らい、かたちにしていくとき、わたしの「うれしい」や「おいしい」が、どこかの誰かを踏みつけにするのではなく、同時に誰かの「うれしい」になりうる世界が、きっと実現すると信じています。

この多彩なネットワークが 教育、地域、世界を変えていく



〈ネットワーク組織の運営〉

- 組織の運営方針や事業計画は、年1回の総会の場で、議決権を持つ正会員によって決議されます。その運営方針や事業計画等を執行する理事会のメンバーは、団体正会員の代表権者もしくは個人正会員から立候補者を募り、選挙を通じて選出されます。
- 各種事業の遂行については、会員参加型のプロジェクトチームを設置し、「政策提言」「地域ネットワーク」「情報共有」「研修／普及」「広報」等に取組んでいます。
- 事務局は、専従職員やボランティアにより構成され、組織運営や事業計画の執行を全般的にサポートする役割を担っています。



富沢 泰夫
損保ジャパン環境財団 事務局長

持続可能な社会を創造するのは「人」
持続可能な環境、平和で安定した社会の実現には、「人」がいかに英知を結集し、行動するかが重要です。当財団でも、大学生が環境NPOで長期インターンをし、環境問題、市民社会のあり方を学ぶ「CSOラーニング制度」を実施しています。機会や場さえあれば、人間の力はいくらでも引き出されることを実感しています。今後、持続可能な社会づくりに向け、ESD-Jの活動に期待しております。



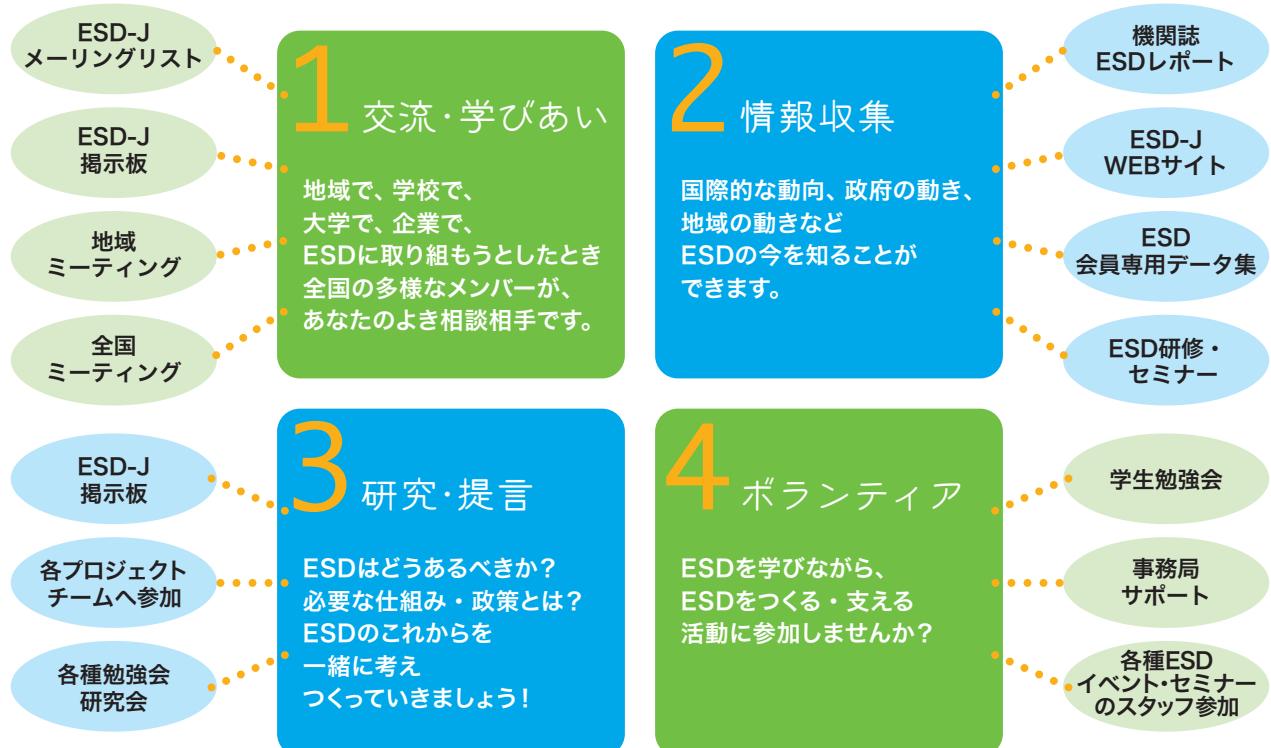
梶野 光信
東京都教育庁社会教育主事

地域の教育改革の基本にESDを
次代を担う子どもたちに求められるのは、学校で教わる形式的な知識の習得ではなく、新しい価値を創造するための知識を体得することです。そこでは地域での「体験」が重視されます。「体験」こそ、新たな知識を生み出す源泉です。これを私たちは「地域教育」と呼んでいます。ESDは、地域からの教育改革の基本に据えられるべき理念であると私は考えています。

ESD-J 100% 活用マニュアル

ESD-Jは、ESDに興味がある、必要性を感じている、そんな団体や個人の役に立つネットワークでありたいと願い、さまざまな活動を展開しています。ESDは明確な正解が用意されているものではないからこそ、それを生み出すためには多くの知恵やエネルギーが必要です。ぜひ会員として参加し、あなたの意見をESD-Jに反映させてください。そしてESD-Jのネットワークをあなたの活動に活かしてください。

ESD-Jの会員になって ····



大学 ESDを岩手大学の旗印に

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と述べた宮澤賢治。ESDの10年は、宮澤賢治の思想がもつ世界的な意味と、この思想が岩手大学に染み渡っていることを気づかせてくれました。岩手大学はこの自覺に立って、全学共通教育のすべての科目にESDを織り込み、多様な教養科目をESDでないだ「学びの銀河」として、学生に自らのESDの星座をつくってもらう構想を描いています。岩手大学は、大学全体でESDに取り組みます。

(国)岩手大学 理事・副学長 玉 真之介 (団体会員)



NPO 生きる力を育む ～お産・子育てからの学び

当会には、自然の摂理にあつたお産や母乳育児をとおして、自分自身の生きる力にあらためて気づき、その体験をほかの母親たちとシェアしたい、伝えたい——、そんな思いをもったお母さんたちが續々と入会しています。子育ての悩み相談など、今まででは母親同士の互助的な活動が中心でしたが、「赤ちゃんとの絆=アタッチメントを育む楽しさ」「生きる力を育む知恵」など、私たちだから伝えられることを、ESD-Jでも積極的に発信していきたいと思っております。

(特活)自然育児友の会 代表理事 内田 淳子 (団体会員)

「未来をつくる教育」をつくる、 メンバーへの招待状

あなたもESD-Jへ

ESD-Jの主旨に賛同し、簡単な承認手続きを経ると、会員になることができます。ESD-Jの会員には、共に活動を進めていく「正会員（団体・個人）」「準会員（団体・個人）」そして組織運営を側面支援いただく「賛助会員」の3種別があります。

●すべての会員は・・・

ESD-Jが発行するニュースレターが毎回、ESD年次報告書が毎年、送られてきます。また、ESD-J主催行事やセミナー、教材販売などが会員価格で利用できます。

●正会員は・・・

正会員は、総会での発言権・決議権があります。また、ESD-Jの理事に立候補し、選出された場合には、理事として事業の執行に関わることもできます。

●賛助会員は・・・

賛助会員は、総会へオブザーバーとして参加いただけるほか、出版物や主催事業のご招待またはご案内をお送りしています。また、賛助会員が企画するESD事業への協力をさせていただきます。

	団体年会費	個人年会費
正会員	一口10,000円(一口以上)	10,000円
準会員	3,000円	3,000円
賛助会員	一口50,000円(一口以上)	



入会のお申し込み

ご入会は、ESD-Jのホームページからどうぞ！

ESD-Jのホームページ (www.esd-j.org) からお申し込みいただけます。またE-mailやFAXでもお申し込みは可能ですので、事務局までご連絡ください。



ESD-Jの沿革

2001年11月
ヨハネスブルグサミット
提言フォーラム (JFJ)
設立

2002年3月
JFJから政府に対し
『ESDの10年』を提言

2002年8月
ヨハネスブルグサミット
にて、NGOと日本の政府が『ESDの10年』を共同提案

2002年12月
第57回国連総会にて
『ESDの10年』採択

ESD-J設立準備世話人会発足

2003年3月
JFJ解散

2003年6月
ESD-J発足

2004年12月
NPO法人格取得

2005年3月
ESDキックオフミーティング開催

ESD-Jは、ESDの10年を提案したNGOのメンバーが中心となり、ESDを市民のイニシアティヴによって推進するために組織されたネットワーク団体です。



行政 市として入会しました！

ESD-Jには、2005年3月のキックオフミーティングに前市長が参加した際に、「岡山市」として加入しました。今後の岡山地域におけるESDの推進のため、他地域、各分野のみなさまとの情報交換が有意義と思い参加しています。

岡山市地域の市民はもとより全国のみなさまと持続可能な地域づくりの推進に向けて一緒に歩んでいきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。

岡山市環境局環境保全部環境調整課長、岡山地域ESD協議会事務局長
内藤 元久（団体会員）



メディア 自分・世界・地球の全体像をとらえる教育番組を

私は環境問題に関心をもち番組をつくってきましたが、個別の問題に警鐘を鳴らすだけでは人類の危機に対処できないと感じ、ESDに興味を持ちました。若い世代が、環境も社会問題も平和もつながりあったものとらえ、地球・世界の全体像と、そのなかでの自分の位置を理解できるような番組をといて、「地球データマップ」という番組を作りました。ESDの教材として活用してもらえたうれしいです。また、ESDのみなさんの活動なども取材させていただきたいと思っています。

NHK制作局ディレクター 畠田 栄一（個人会員）

みんなの取組みに
未来をつくる「人」を育てるという視点を。
きっとその「人」たちが
地球の未来を変えていく。



www.esd-j.org



お問い合わせ

特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 (ESD-J)
〒151-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F
URL:www.esd-j.org E-mail:admin@esd-j.org
TEL:03-3797-7227 FAX:03-6277-7554

この冊子の一部は、
地球環境基金による
平成19年度助成を受
けて作成いたしました

